

令和6年度宇都宮大学第3年次編入学試験問題

## 小論文

農学部 森林科学科

令和5年6月15日(木)実施

9時00分～10時00分

令和6年度宇都宮大学農学部第3年次編入学試験問題

宇都宮大学農学部

科目名： 小論文

学科名： 森林科学科

次の問題を読んで解答用紙に答えなさい。

日本の国土の約3分の2を占める森林は、木材生産に加え、生物多様性の保全、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止などの多面的な機能を有するとされる。日本の森林の約4割はスギ・ヒノキなどの人工林であり、木材供給を主に担ってきた。その木材供給量と木材自給率は図1のように過去約65年間で大きく推移した。一方、水源の涵養などの特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣または都道府県知事によって指定される森林のことを保安林と言い、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制される。図2のように保安林面積は過去約65年間で大きく変化した。

このような多面的な機能をもつ森林に対して、日本国民が期待する役割は変遷してきた（図3）。このような役割の変遷の特徴やその背景として考えられることについて、図1、2を参考にして記述しなさい。

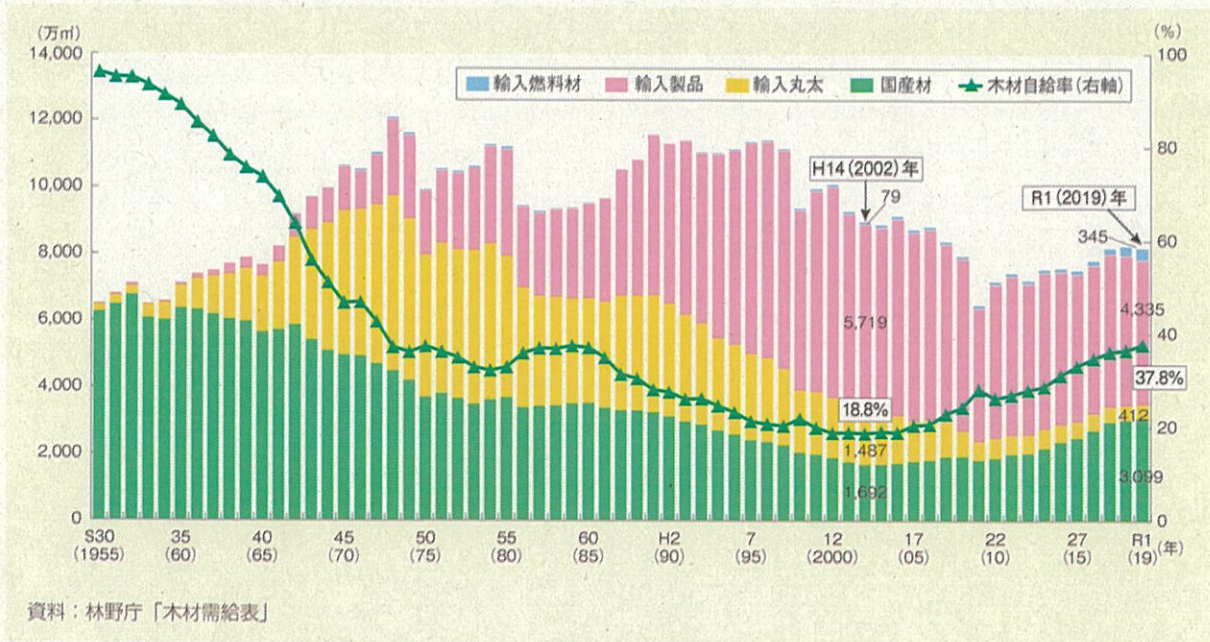


図1 木材供給量と木材自給率の推移  
出典：令和2年度森林・林業白書

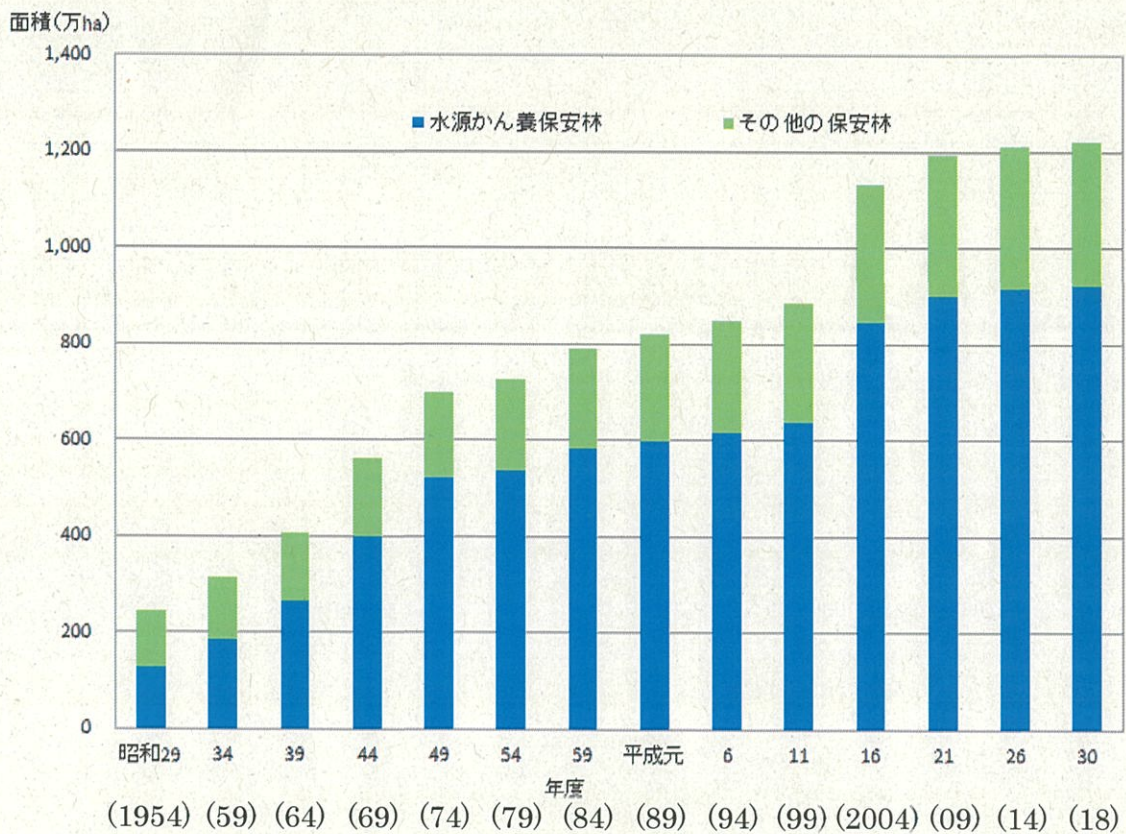
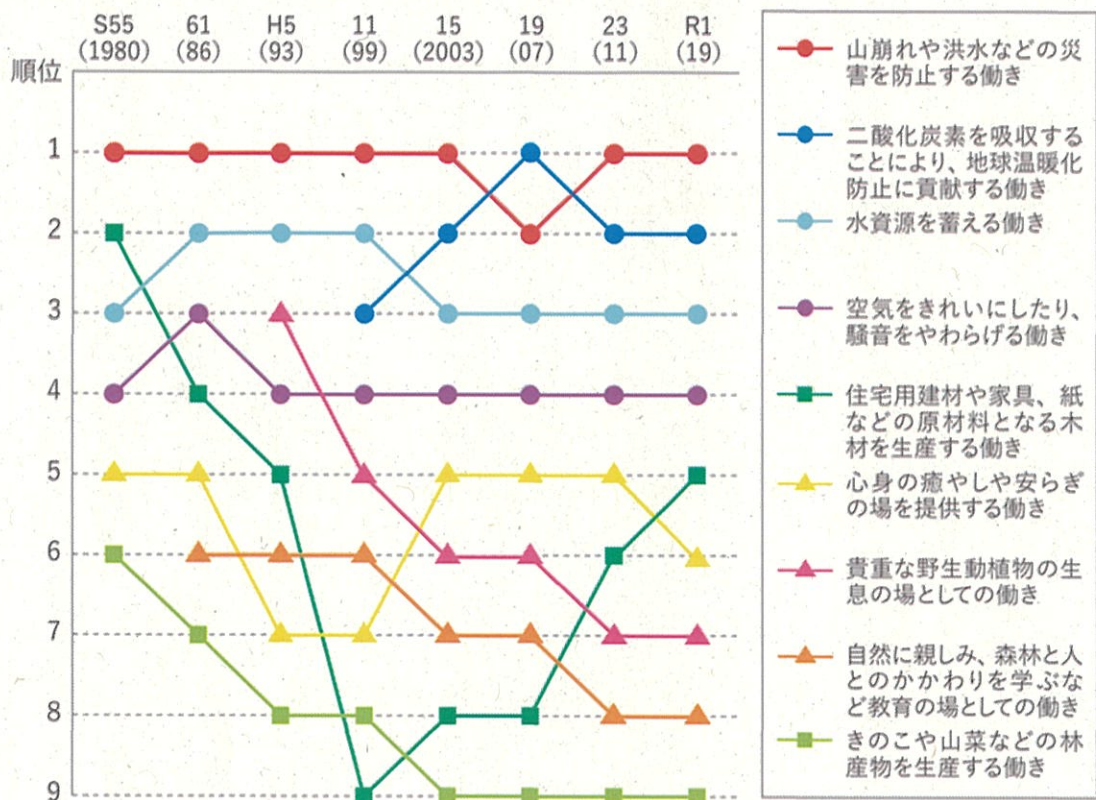


図2 保安林面積の推移  
出典：林野庁ホームページ（原図に西暦を追加）



注1：回答は、選択肢の中から3つを選ぶ複数回答である。

2：選択肢は、特になし、わからない、その他を除き記載している。

資料：総理府「森林・林業に関する世論調査」(昭和55(1980)年)、「みどりと木に関する世論調査」(昭和61(1986)年)、「森林とみどりに関する世論調査」(平成5(1993)年)、「森林と生活に関する世論調査」(平成11(1999)年)、内閣府「森林と生活に関する世論調査」(平成15(2003)年、平成19(2007)年、平成23(2011)年、令和元(2019)年)を基に林野庁作成。

図3 日本国民が森林に期待する役割の変遷

出典：令和2年度森林・林業白書